

巻頭言

本紀要は前身の留学生指導センター時の創刊号から通算で第 27 号目になります。組織改組に見舞われ、『留学生指導センター』から『留学生センター』となり、『国際教育リエゾン機構』に組み込まれ、2018 年 7 月に、同機構から独立して『留学生教育・支援センター』として再出発したあとの第 1 回目の紀要となります。

留学生教育・支援センターは、主に協定校からの留学生を対象に日本語教育を責任もって実施する部署であります。留学生の入国から日本語教育プログラムの修了後の帰国あるいは日本での就職までの教育と学生支援を行っています。さらに、在校生の日本人学生の海外留学の支援も行っています。

本学は、第 3 期中期目標・中期計画に従い、多様な価値観を持った学生の集うキャンパスの国際化を積極的に推進しています。昨年度のデータでは、中長期に在籍した留学生は約 580 名で、短期プログラムを含めると約 1,000 名ほどに増えています。一方、単位修得を伴って海外留学した日本人学生は、学部生で約 460 名、大学院生で約 50 名でありました。今後ますます増えていくことは間違いありません。

昨年度の 7 月に行った組織改組および留学生の増加で、現場は浮き足立ち、やや混沌とした状況の中で、本紀要は 2018 年度(2018 年 4 月～2019 年 3 月)の活動内容を報告しています。全く日本語を知らない留学生に対して英語による日本語・日本文化の啓発を夏と冬に短期プログラムで新たに実施しました。また、国際交流を介した地域貢献も含まれています。ぜひ本紀要を活用され、皆様に役立つことを願っています。

最後に、この長崎大学の地(知)で、多様な文化と価値観を持った留学生同士が、あるいは留学生と日本人学生が触れ合うことで、寛容さとコミュニケーション能力が向上し、ある種の化学反応が起こり、新しい価値観や研究成果を協働で発信されることを期待しています。同センターは留学生や日本人学生のさらなるキャリアアップの一助になるために今後も邁進していくつも

りです。関係各位のご理解とご支援の程，宜しく申し上げます。

長崎大学理事・副学長

留学生教育・支援センター長

塚元 和弘